

## 丹後山～兎岳～荒沢岳縦走記録



目的地	丹後山～荒沢岳縦走	期 日	平成19年10月13～14日(土・日)
山人	笠原正雄単独	特 記	今度は天気の良い日にもう一度、兎岳～荒沢岳の難路縦走

地名	(着)～(発)	空	記 事
<b>1日目(13日)</b>			
与板発	6:25	曇	下道で息子と2台で荒沢岳登山口へ帰り車を配車。9:30 十字峡着。
落合橋	10:00 発	〃	地元人がテントでナメコ汁、岩魚塩焼き等の準備中。息子帰宅。
丹後山登山口	10:30	〃	途中で下山夫婦とスライド。栃ノ木橋手前で3人が決壊道路の工事中。案内早くに着いた。登山口標識に530m(標高と思われる)とある。急登に入る。
1合目鉄砲平	10:55	晴	標高稼ぎの急登で下から聞える沢音も小さくなった。
2合目 925m	11:25	〃	展望3分先とある。進めば左に栃ノ木沢上部が良く見える。
カモエダズンネ	11:50	〃	標識は無い。更に展望が良い。少し紅葉が始まっている。
3合目約1050m	11:55	〃	1合通過に30分かかっている。10合目まで5時間かかるのか?と思う。
木の根で休む	12:00～12:05	〃	腰を下ろして少し食べる。巻機山だろうか、右手の山が形良く見える。
4合目 1250m	12:30～12:35	〃	写真撮影。日向山気象観測棟が見える。中ノ岳から兎・丹後への稜線を追えば、笹原の緑がピロード絨毯のように見え、所々紅葉が混じる。
6合目 1480m		〃	ジャコノ平は通過してしまったようだ。紅葉が徐々に綺麗になって来た。
単独女に追付く	1:20	〃	蛇一匹としか遭わなかったが、上山中唯一の人。東京からで野中スタートで翌日、同じコースを歩くという。この女がなかなかの曲者である。
8合目 1700m	1:40～1:55	〃	10分程前から灌木の背丈が低くなり開けてきた。岩場の小ピークに上がり休む。地図を広げ越後沢山～下津川山～巻機山、そして金城山を見る。
丹後避難小屋着	2:20	〃	5分前に巻機山分岐の標識があり、沢山方向に低い笹のトレースを目で追える。足を踏み入れてみたがとても進めたものではない。左に折れて胸ほどの高さの笹原を進み入室。1Fに2人分の敷物。2Fに陣取る。のち敷物の持ち主の群馬からの2人が戻る。単独女も来て2Fに上がる。4人で会話が始まるが、女は相当山を歩いているらしく、微にいり細に渡り話を突っ込んで来る。[麓の集落から歩く主義/4kgのテントにツェルト持参/5ℓの水/極太のローソク/スピーカーで気象通報 etc]。俺の山行スタイルとかけ離れている。そうでなければ、翌日一緒に歩こうと言うのだが、ヤメタ。

群馬両氏を誘う		〃	一度外に出る。帰りに1Fの黒島・松本氏の席にお邪魔する。中ノ岳を下ると言う。件の女に聞えぬように、ならば帰り車で十字峡まで送るから、縦走路と一緒に歩こうと誘う。話がまとまり、YHC所属と名前を名乗る。
就 寝	6:30	霧	天水タンクから500mlを汲んだ。夕食はα飯とイカ缶詰、漬物
<b>2日目(14日)</b>			
起 床	3:10	霧	夜中は寒かった。途中からラジオを聴いた。パンとコーヒー2杯の朝食。
歩 き 出 し	5:00	〃	少しばかり星が出ている。3人でヘッドランプとカップでスタート。
利根川水源碑	5:25	〃	東の空が一部赤くなって来たがまだ暗い。2人は暗い中、碑の写真を撮る。
大 水 上 山	5:35	〃	笹の道が続く。この数分後頭電を消す。やや長い大下りに入る。
兔 岳	6:00~6:15	晴	量感たっぷりの中ノ岳に朝日が当たって来る。カップ上衣を脱ぐ。東側はガス、西の越後側は雲海だ。だんだんと朝日に照らされて三山が美しい。分岐からの道は中ノ岳への道より広く刈られている。又、一昨年は笹を倒しただけの歩き難い斜面下りも刈られていて数段歩き易くなった。
巻 倉 山	7:05~7:15	〃	真新しい山名看板が標柱に掲げられていた。駒ノ小屋が見える。朝露も少なくなってカップズボンと脱ぐ。後発の女が兔岳に向かっている。
刈 払 い 拠 点	7:25	〃	テニ場に「荒沢岳～兔岳登山道整備中／奥只見山岳会・新潟稜友会・ドンガラ山の会・越後路遊歩人会」とある。広場に「陽の水／水場まで下り5分(夏でも潤れる事は無い)」とあり、右下の沢を指しているが、覗いたのみ。
源 蔵 山	7:50~8:50	〃	標柱を過ぎて道斜面に腰を下ろす。とても気分が良い。燧ヶ岳が目の前だ。日光から上州・越後に向かう山が連なっている。歩き出せば1つ池塘がある。
灰 ノ 又 山	8:30	〃	先回よりかなり早いペースだ。荒沢岳がくっきり見えて来た。少し立ち止まった程度で歩き出す。この後の笹藪も刈払われていて頭から突っ込んで進むようなことは全く無くなった。
灰 吹 山	9:25~9:35	〃	喬木に看板が掲げられていた。荒沢岳に立つ人の姿が見えるようになった。この後の樹林中の道は少し手入れが薄い感じがする。しかし進行には問題無い。
稜 線 歩 き	10:20	〃	縦走最終盤。紅葉の山を振り返りながら進む。
荒 沢 岳	10:30~11:20	〃	ピストンの10数人が居た。湯を沸かし、両人から昆布茶を貰い、お握りでランチ。焼きハムもご馳走になる。暖かいものは旨い。遠く飯豊も見えた。
前 嵯 上 部	12:15~12:25	〃	前嵯の標柱を過ぎた所でストック収納。鎖に入る。
鎖 場 途 中	12:50	〃	長い鎖を終え、立ち止まり呼吸を整える。すぐにロープの岩を登る。小ピークで振り向けば、前嵯を後続の人々が鎖を下りている。ここから見ると垂直の下りに見え、かなりの高低差がある。
前 嵯 基 部	1:10	〃	鎖と梯子を全て終え、一本ストック歩行とする。
荒 沢 岳 登 山 口	2:25	〃	下山時間は、小休止を含めるが、山と高原地図のコースタイムと同じであった。銀山茶屋へ移動し、帰り支度を整える。
十 字 峡 へ	4時頃	曇	両人を送って行く。
与 板 着	5:30	〃	小出「かたくり」に立寄る。ウオロクで鶏肉を買い。チキンカツを揚げ、息子の作ったカレーライスに添える。
み よ し の へ	7:15	〃	夕食と入浴をそこそこに、上州武尊組5人と同席する。9時前帰宅。

一昨秋、駒ヶ岳～荒沢岳を歩いた。灰ノ又の縦走コースは、その時に比べると、所によって笹刈切りの根株が10数cm程残ってはいるものの、格段の差で歩き易くなった。藪をかき分けて進まなければならない所も無くなった。もう、難路では無く一般路に近いと言っても良いくらいだ。

先回歩き終えた直後は、もう2度と歩くことはないだろうと思ったのだが、後日、荒沢岳の山頂で出会った見附の松坂良一氏とのメールのやりとりで、本コース刈切りのいきさつを知った。それを読んで、展望の利く時にもう一度歩きたいと思いが変わり、今回の山行となった。末尾にその内容をとどめておく。

天候に恵まれ、素晴らしい紅葉と大展望を楽しめた。なおかつ良き同行者を得て、快適かつ楽しい縦走となった。

\* \* \* \* \*

【松坂良一氏からのメール (H17.09.27)】

私のパーティーは8名です。見附の私の相棒と、新潟山岳会の阿部さん以下5名です。

もともと、私の山友達の「どんがら山の会」の吉井義典さんが今から4年前に、この縦走路の道きりをやる！というので、やめとけ、やめとけと云ったのですが、遂に決断して、初めました。その後丹後の登り口に「協力者、求む」の張り紙をみて、長靴男の岩室の「堀川杜夢」さん、長岡の小出さん(美人おくさん、の)で3人になりました。よもやと思っていたのですが、彼らは石の上にも3年の頑張りで、遂に昨秋雪の寸前に、遂に貫通したのです。

どうしてもここを歩いてやってくれ。とたのんで、新潟山岳会の阿部さん達を誘って今回の楽しい山歩きが出来たという訳です。